



日本共産党

北区議会議員

のの山けん 区政レポート

http://kyoukita.jp/nonoyama/ E-mail nonoyama@kitanet.ne.jp

No.374 2015.12.16

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談は
お気軽に **090-2156-3510**

総がかり行動
実行委員会が
よびかけた

戦争法廃止統一署名 2000万人に広げよう



各戸を訪問し署名をすすめる、のの山けん区議

戦争法の発動によつて、アフリカ・南スーダンに派遣された自衛隊の任務拡大やI Sへの空爆支援の危険が現実のものとなりつつあります。戦後初めて、日本の若者が海外での戦闘で命を失うかもしれないと考えた時、何としてもこれを止めなくてはならないと強い

地域に入るときは、一軒一軒を端から訪ね、署名をお願いします。普段つながりのない人がほとんどですが、「よく駅で演説してい

一軒ずつ足運び
署名を依頼

思いにかられます。これが署名活動への原動力になっています。

安倍政権が強行した憲法違反の戦争法は、断じて許せません。私は連日街に出て、総がかり行動実行委員会がよびかけた「戦争法廃止を求める統一署名」を集めています。(のの山けん)

産党志茂・赤羽後援会

赤羽駅東口で
1時間に43筆

ますね」と言っていただけのこともあります。「20歳になる孫がいる。戦争に行かせたくない」、「疎開先で空襲を体験した。夜も眠れなかった恐ろしい戦争を二度と繰り返してはいけない」と署名にに応じてくれる方がいる一方、「そんな法律は知らない」「憲法があるから戦争には参加できないはず」という方も。やはり声をかけることが大事です。

のみなさんと駅頭や商店街で署名宣伝行動にとりくんでいます。先週は赤羽駅東口で1時間訴え、43人の方が署名に応じてくれました。私のまわりにも一人で2000筆、3000筆の署名を集めるんだと頑張っている人がいます。私もコツコツと署名を広げ、2000万筆の目標をやり遂げたいと決意しています。

衆議院議長 大島理森 様
参議院議長 山崎正昭 様
内閣総理大臣 安倍晋三 様

戦争法の廃止を求める統一署名

2015年9月19日に参議院で「強行採決」され、「成立」した「平和安全保障関連法」は、憲法9条が禁じる国際紛争解決のための武力行使を可能とするもので、憲法違反であることは明らかです。したがって、「平和安全」の名にかかわらず、その内容はまぎれもなく戦争法です。また、憲法解釈を180度くつがえした閣議決定に基づいた違憲の立法は、内閣と国会による立憲主義の否定であり、断じて認めることはできません。この戦争法が発動されれば、日本は海外で戦争する国になり、自衛隊は海外で殺し殺されることになり、日本自体が武力紛争の当事者となって、「平和安全」とはまったく逆の事態を招くこととなります。戦争法に対しては、国会審議の段階で、憲法の専門家をはじめ、さまざまな分野の人の強い反対の声を国会内の数の方で踏みにじった採決は、主権在民と民主主義を壊す暴挙であり、正当性を欠くものです。以上の趣旨から、次の事項について請願します。

【請願事項】

- 一、戦争法である「平和安全保障関連法」をすみやかに廃止してください。
- 一、立憲主義の原則を堅持し、憲法9条を守り、いかしてください。

氏 名	住 所

「反対あっても了承」と強弁

議会事務局 議会改革検討会で5会派の資料訂正に応ぜず



カラオケ会 歌い納め

日本共産党志茂・赤羽後援会のカラオケサークル「カモメ会」が13日、歌い納めの忘年会。普段の倍近くに参加で、熱唱を繰りひろげました。(のの山けん)

非交渉団体会派に「幹事長会…への出席を求めない」などとする議会改革検討会資料の訂正を求めている日本共産党と4つの1人会派（社民、新社、維新、元気会）の質問状に対し、10日の議会改革検討会で区議会事務局から回答がありました。

議会先例集ではオプザバー参加が認められている非交渉会派を幹事長会から排除していることに關し、事務局は、5月に開かれた各派代表者会でルール

が変更されたとの認識をしめし、「非交渉会派に『出席を求めない』とした提案には反対意見が多数あったが、最終的に了承された。資料訂正の必要はない」などとのべました。

これに対し共産党のの山議員は「私たちの会派は了承などしていない。幹事長会に準ずる各派代表者会の決定は全会一致が当然だ。『反対はあったが了承された』などという言い分は通りようがない」と指摘しました。

安倍式民主主義の劣化が末端にも

[illegible]

12月15日付「日刊ゲンダイ」に掲載されたコラム

ジャーナリストの斎藤貴男氏が 住民無視の運営を批判

先週号（区政レポート373号）で報じた北清掃工場運営協議会について、ジャーナリストの斎藤貴男氏が12月15日付「日刊ゲンダイ」のコラムで「傍聴している方が恥ずかしくなった」と、運営のあり方を痛切に批判しています。

7日に開かれた問題の協議会は、北清掃工場建設時に東京都と住民との間で結ばれた公害防止協定に基づき継続的に開かれていくもの。協議会委員として出席していた北清掃工場の環境を考える会の代表が、周辺環境を悪化させ公害防止協

86号線問題の申し立てを拒否した 北清掃工場運営協議会

定にも反する補助86
号線計画の認可取り
消し決議をあげるよ
う協議会に申し立て
ていましたが、事務
局がこれを拒否。座
長は、「忙しいので
帰りたい」などとす
る委員の発言を受け
会議を一方的に散会
させました。

は「都合の悪い話は封殺。そのためなら出来レースも当たり前。安倍晋三式の卑劣が末端の隅々にまで行き届いた、政治や行政の絶望的な劣化」と指摘しています。